

NPOの災害支援活動を考えるフォーラム

～日頃の取組を災害時に活かそう！～ 主催：三重県

日頃からさまざまな分野でNPOやボランティア等の皆さんが専門性を活かして活動に取り組んでいます。

そうした日頃の取組を災害時の支援活動に活かすにはどうしたらよいのでしょうか。災害時に備えた「顔の見える関係づくり」の視点もふまえながら考えます。

日時 平成29年2月15日（水） 13:30～17:15
(受付開始13:00～)

場所 みえ県民交流センター ミーティングルーム
(津市羽所町700番地アスト津3階)

**参加費
無料**

対象 NPO・ボランティア・公益法人関係者、社会福祉協議会の
災害救援支援担当者、行政職員等

定員：先着50名

プログラム

13:30	開会、あいさつ
13:35～14:35	基調講演「災害時に求められるNPOの役割」 講師：渥美 公秀氏 (大阪大学大学院人間科学研究科教授、(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長)
14:35～14:45	休憩
14:45～16:15	パネルディスカッション 「みんなで考えるNPOの災害支援活動」 ＜コーディネーター＞ 渥美 公秀氏 ＜パネリスト＞ 柿久保 浩次氏 ((特)日常生活支援ネットワークパーティ・パーティ理事長) 筒井 美幸氏 ((公財)三重県国際交流財団企画総務課長) 中森 忠司氏 (伊勢市災害ボランティアセンター長)
16:15～16:25	休憩
16:25～17:15	交流会、閉会

◆お問い合わせ・申し込み先◆ 裏面の参加申込書によりお申込みください。

三重県環境生活部 男女共同参画・NPO課NPO班

電話：059-222-5981 FAX：059-222-5984 Eメール：seiknpo@pref.mie.jp

講師・コーディネーター&パネリスト紹介

NPOの災害支援活動を考えるフォーラム～日頃の取組を災害時に活かそう！～

渥美 公秀氏

(大阪大学大学院人間科学研究科教授、(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長)

1961年大阪府生まれ。大阪大学人間科学部卒業。大阪大学大学院人間科学研究科助教授などを経て、2010年大阪大学大学院人間科学研究科教授に就任。自宅のあった西宮市で阪神・淡路大震災に遭い、避難所などでボランティア活動に参加。被災者の心に寄り添うことを大切にしながら、2004年新潟中越地震では小千谷市塩谷へ、また東日本大震災では岩手県野田村へ長期の支援を続けている。現在、特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク理事長のほか、日本災害復興学会、国際ボランティア学会の理事などを務め、多くの社会活動を行っている。

柿久保 浩次氏

(特)日常生活支援ネットワークパーティ・パーティ
理事長

阪神・淡路大震災時に、障がい者の避難者支援に取り組み、さまざまな課題に直面する。その後、「パーティ・パーティ」「関西STS連絡会」「ももくり送迎基金」を設立。平常時と災害時を切り離すことなく、障がい者の生活支援や移動支援に取り組んでいる。

筒井 美幸氏

(公財)三重県国際交流財団
企画総務課長

青年海外協力隊OG。三重県との「『みえ災害時多言語支援センター』の設置・運営に関する協定」「災害時の外国人住民支援にかかる協定」の締結に携わる。熊本地震や日本財団が実施する災害時の被災者支援拠点運営人材育成事業等に協力し、全国の支援団体とのネットワークづくりに取り組んでいる。

中森 忠司氏

伊勢市災害ボランティア
センター長

(福)伊勢市社会福祉協議会 本所 地域福祉課長。伊勢市災害ボランティアセンターの常設化に携わる。現在、センター長として、市社会福祉協議会と伊勢市役所、NPO等と連携・協力したセンターの運営を行うとともに、互いに「顔の見える関係づくり」に取り組んでいる。

《NPOの災害支援活動を考えるフォーラム 参加申込書》

下記にご記入の上、FAXまたはメールでお申し込みください。

申込締切：平成29年2月9日(木)

FAX：059-222-5984

E-mail：seiknpo@pref.mie.jp

記

◆参加者氏名：

◆団体名：

◆電話番号：

◆E-mail：

※個人情報に関しましては、本フォーラム以外の目的では使用いたしません。

※当日は、なるべく公共交通機関でお越しください。